

県内9か所の農業改良普及センターからの現地情報をお届けいたします。

みやぎの 11月号

農業普及現場



普及活動標語

思いを形に、あなたのチャレンジを支えます。
応援します。農業普及

NEWS LETTER No.201 2023.11

紹介内容 (10/1 ~ 10/31)

1. みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技術の活用等による生産基盤の強化

- ① 先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
 - 石巻農改：石巻産オリーブが搾油されました
 - 大河原農改：WCS用稲「リーフスター」を収穫しました
 - 大崎農改：地域農業の将来を考える～清水地区の若手農業者の思い～

- ② 新たな担い手の確保・育成・・ 2
 - 亘理農改：農業大学校先進農業体験学習の巡回を行いました
 - 登米農改：登米市農業士会経営向上研修会が開催されました
 - 石巻農改：みやぎ農業未来塾「石巻地域の農業紹介講座」を開催しました
 - 登米農改：新規就農者のサポート巡回を実施しました
 - 大河原農改：農業大学校1年生の先進農業体験学習が終わりました
 - 気仙沼農改：農業大学校の先進農業体験学習の終了式が開催されました
 - 亘理農改：農業大学校先進農業体験学習が終了しました
 - 美里農改：令和5年度美里地区先進農業体験学習終了式が開催されました
 - 仙台農改：農業大学校の先進農業体験学習の終了式を行いました
 - 栗原農改：先進農業体験学習が無事終わりました
 - 登米農改：登米管内で新規就農者をマイスター農業者が支援しています！
 - 登米農改：宮城県農業大学校の先進農業体験学習が終了しました
 - 石巻農改：石巻4Hクラブが青空市を開催しました

- ③ 園芸産地の育成・強化支援・・ 6
 - 大河原農改：若手果樹生産者の合同出展活動～せんなんマルシェ in 大河原合庁編～
 - 大河原農改：蔵王地区の里芋出荷が始まります！
 - 石巻農改：トマト黄化葉巻病対策講習会を開催しました！
 - 石巻農改：地域園芸産出額37億円目指して！第二回園芸特産振興会議を開催！
 - 仙台農改：令和6年産いちご苗定植状況の確認
 - 気仙沼農改：令和5年度いちご栽培研修会を開催しました
 - 栗原農改：栗原管内でさつまいもの収穫が始まりました！
 - 大崎農改：JA加美よつばキャベツ部会の出荷説明会が開催されました
 - 亘理農改：宮城県花き品評会で管内花き農家の出品物4点が入賞しました
 - 仙台農改：利府町で果樹産地協議会が設立されました
 - 仙台農改：松島交通社会実験の賑わいイベントで「松島とまと」を販売しました
 - 大河原農改：令和5年度協同農業普及事業の外部評価（第1回）を開催しました

このニュースレターは、ホームページ(カラー版)でご覧になれます。<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nosin/gennba1.html>
このニュースレターに掲載している情報を一足早く紹介するブログもあります。<https://blog.goo.ne.jp/miyagifukyu>

- ③ 園芸産地の育成・強化支援（続き）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
 - 栗原農改：スナックえんどう栽培講習会が開催されました
 - 美里農改：令和5年度宮城県花き品評会で美里管内生産者が金賞・銀賞を受賞しました！
- ④ 収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援・・・・・・・・・・・・ 10
 - 大崎農改：子実用とうもろこしの刈取り実演会が開催されました
 - 気仙沼農改：さつまいもの収穫作業が行われました
 - 石巻農改：令和5年度宮城県総合畜産共進会（肉用牛の部）が開催されました
 - 仙台農改：農地集積の推進会議が開催されました
 - 仙台農改：JA仙台大豆生産部会協議会が開催されました

2. 時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給

- ① 時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給支援・・・・・・・・・・・・ 12
 - 石巻農改：子実用とうもろこし専用収穫機（コーンヘッダ）の実演会が行われました
 - 気仙沼農改：令和5年産南三陸米の出荷が開始されました
 - 美里農改：令和5年度宮城県総合畜産共進会（肉用牛の部）、大崎市田尻地区の出品牛が名誉賞を受賞！

3. 多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農業・農村の構築

- ① 地域資源の活用等による地域農業の維持・発展・・・・・・・・・・・・ 13
 - 美里農改：海外の農村女性の能力向上に向けて、宮城県の普及活動を開発途上国の普及員等に紹介！
 - 気仙沼農改：気仙沼市大島で商品開発研修会を開催しました
 - 亘理農改：「なとり・ぐるっと親子講座 稲刈体験」が開催されました
 - 大崎農改：『ささ結』9年目の新米試食会が開催されました
 - 気仙沼農改：酒米サポーターズクラブの稲刈りが行われました
 - 亘理農改：地域計画策定に向けた地区協議が開催されました
 - 大崎農改：「高城（たかぎ）ごぼう」の収穫作業が行われています
- ② 環境に配慮した持続可能な農業生産の取組支援・・・・・・・・・・・・ 16
 - 登米農改：JAみやぎ登米アグリフェスタにて、「グリーンな栽培体系」の紹介を行いました

4. その他

- ① 要請・緊急対策、その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
 - 大河原農改：東北ブロック現地活動調査研究会が開催されました

1. 人材育成・生産基盤の強化

①先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援

○石巻産オリーブが搾油されました
令和5年10月16日
石巻農業改良普及センター



令和5年10月10日(火)に、石巻市北限オリーブ研究会主催で本年最初のオリーブの収穫、搾油が行われました。

最高級品のエキストラバージンオイルを生産するには、着色前の緑果を収穫6時間以内に搾油する必要があります。収穫当日はオリーブを栽培している農事組合法人みのりと株式会社宮城リスタ大川が共同で、収穫から搾油までの一連の作業をスムーズに行えるよう収穫と選果、搾油に分かれて作業が行われました。

オリーブ栽培は、石巻市の主導で東日本大震災の津波で被災した農地や住宅跡地を活用して平成26年から開始されました。本年は搾油する果実量が初めて1トンを超すことが見込まれ、搾油は5日間行われる予定です。石巻産オリーブオイルは、各オリーブ栽培者が販売しています。

○WCS用稲「リーフスター」を収穫しました
令和5年10月17日
大河原農業改良普及センター



令和5年10月11日にWCS用稲の展示ほとして蔵王町で栽培した極晩生品種「リーフスター」の収量調査を蔵王町役場の担当者らと行いました。

収穫は、デントコーン専用機械を転用し、直径100cmのロールを成型。その後、別の機械でラッピングを行いました。

調査の結果、総生草重換算で目標以上の約4,000kg/10aを収穫することができました。

普及センターでは、関係機関と連携し、更なる単収の増加や自給飼料の生産振興が図られるよう支援してまいります。

○地域農業の将来を考える
～清水地区の若手農業者の思い～
令和5年10月25日
大崎農業改良普及センター



大崎農業改良普及センターでは、プロジェクト課題として、色麻町清水地区の法人化を軸にした将来の営農ビジョンの形成に対する支援を行っています。今回は、清水地区の次世代の営農を担う若手農業者5人に現在の課題や将来について聞き取りを行いました。

若手農業者からは、「自分たちが地域の農業を背負って、清水地区の農業を守っていきたい」という頼もしい思いを聞くことができました。幅広い世代の農業者が活躍している清水地区では、どのような法人経営をしていくか世代を超えて議論していくことが必要となっています。若い担い手の思いも法人の理念や経営に生かしていけるよう、引き続き地域での話し合いを支援していきます。

②新たな担い手の確保・育成

○農業大学校先進農業体験学習の巡回を行いました

令和5年10月2日

巨理農業改良普及センター



令和5年9月14日（木）、21日（木）、22日（金）の3日間にかけて、農業大学校の先進農業体験学習で管内に派遣されている1年生の巡回を行いました。派遣先は管内の先進的な農業経営者で、令和5年9月4日（月）から10月6日（金）まで派遣学生が、農業技術や経営を学習します。

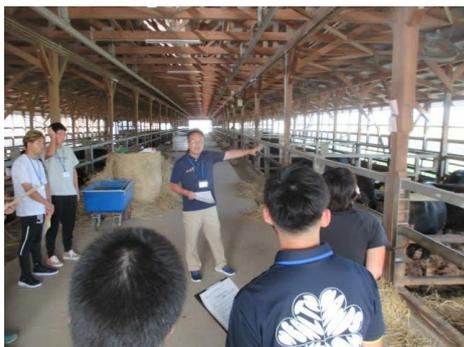
学生は皆、生き生きとした表情で、充実した研修生活を過ごしている様子が見受けられました。「最新のトラクターに乗せていただき、良い経験ができて嬉しかった。」「毎日新たな発見があって楽しい。」などの感想がありました。

普及センターでは、今後も農業大学校等の関係機関と連携して担い手の育成を支援していきます。

○登米市農業士会経営向上研修会が開催されました

令和5年10月2日

登米農業改良普及センター



令和5年9月15日（金）に登米市農業士会の経営向上研修会が開催されました。本研修会は、相互に経営状況を視察することで会員個々の経営発展を目的としているほか、登米農業改良普及センターの「みやぎ農業未来塾Aコース」も兼ねており、管内の農業士のほか、地域の農業後継者である4Hクラブ員や宮城県農業大学校の学生など16人が参加しました。

当日は、指導農業士で肉用牛一貫経営を行っている千葉啓氏の畜舎や、青年農業士の櫻井利光氏及び相澤宏氏の出荷調製施設や生産施設を見学しました。

千葉氏からは牛の飼養管理や一貫経営へのこだわりについて、櫻井氏からは露地野菜生産での周年雇用の一環としてのえだまめ栽培導入について、相澤氏からは施設野菜（いちご）の栽培と土地利用型作物の複合経営について説明いただきました。

参加者は視察先の経営の特徴的なポイントや工夫している部分について互いに意見を交わしていました。また、農大生は研修先や自家と視察先との技術的な違いや、他分野の経営内容について理解を深めたようでした。

普及センターでは、世代を超えた農業者の交流について引き続き支援していきます。

○みやぎ農業未来塾「石巻地域の農業紹介講座」を開催しました

令和5年10月6日

石巻農業改良普及センター



令和5年9月21日に、令和5年度みやぎ農業未来塾「在学者コース～石巻地域の農業紹介講座」の第2回目を開催しました。

本講座は、高校生を対象に石巻地域農業の優良事例を紹介し、進路選択の参考と学習意欲の向上を図る目的で開催したものです。

今回は、石巻北高校食農系列2年生15人を対象に、石巻地域の施設園芸型農業法人の取組紹介として、石巻市の有限会社サントマト石巻を訪問し、同社代表取締役から大型園芸施設での栽培の様子や自社ブランドの高糖度トマトの販売戦略等について説明を受けました。

生徒らは1haのハウス内の広さやトマトの本数の多さに驚き、養液栽培システムや害虫を捕殺する黄色の粘着シートなど、初めてみる大規模トマト栽培に興味を示し、熱心にメモをとる姿が見られました。

当普及センターでは、本県農業を担う若手農業者へ、引き続き支援を行います。

○新規就農者のサポート巡回を実施しました
令和5年10月10日
登米農業改良普及センター



農業次世代人材投資事業（経営開始型）の交付対象者となっている認定新規就農者を対象に、9月21日、22日に登米市、農業委員会、JAと連携してサポート巡回を行いました。

今回は、野菜の4経営体5人と畜産（繁殖）の1経営体2人を対象に巡回し、就農計画の達成状況や、今年度の営農状況について確認し、今後の営農に向けた意見交換・営農指導を行いました。農業資材や飼料の価格高騰、子牛市場相場の下落に加え、夏場の異常高温もあり、思いどおりに営農ができない状況の中、それぞれの計画達成に向けていろいろと工夫しながら農作業に励んでいる様子でした。

普及センターでは、今後も関係機関と連携しながら、地域の担い手の確保・育成に努めていきます。

○農業大学校1年生の先進農業体験学習が終わりました
令和5年10月10日
大河原農業改良普及センター



10月6日に大河原合同庁舎で、農業大学校が主催する先進農業体験学習の終了式が開催されました。大河原管内では農業大学校の1年生2名が33日間、先進的な農業経営を実践する農業者のもとで、生産技術や経営管理を研修しました。

学生からは「出荷作業などを通し、消費者を身近に感じるようになった。農家の責任感を実感し、農業に携わりたいという想いがより強くなった。」などの感想が述べられ、受け入れた農家からは「言われたことだけでなくその先を考えて動いてくれたので、引き続き働いてもらいたいくらいだ。」とねぎらいの言葉がかけられました。

普及センターでは、今回の経験が就農や関係業種への就職等将来における指針に繋がるものと期待しています。

○農業大学校の先進農業体験学習の終了式が開催されました
令和5年10月12日
気仙沼農業改良普及センター



令和5年9月4日から開始された33日間の農業大学校先進農業体験学習が終了するに当たり、令和5年10月6日、県内各農業改良普及センターにおいて農大生、受入農家、関係機関による終了式が開催されました。

当普及センターでも、畜産学部の学生1名を受け入れ、期間中は随時、巡回訪問をするなどして学習を支援してきました。

終了式では、農業改良普及センター所長から学生への今後の期待と受入農家への感謝を込めた挨拶があり、その後、学生からは学習を振り返り、「経験を今後の専攻学習に活かしたい」とお礼の言葉が述べられました。また、受入農家からは「結果を出すために日々努力してほしい」と将来に期待を寄せる言葉をいただきました。

学生自身も「仕事が少しずつ自分でできるようになった」と成長を感じており、普及センターでは、引き続き農業大学校と連携して農業の担い手を確保・育成していきます。

○農業大学校先進農業体験学習が終了しました
令和5年10月12日
亘理農業改良普及センター



令和5年9月4日（月）から10月6日（金）にかけて33日間行われた、農業大学校の先進農業体験学習が無事に終了しました。本学習は、農業大学校の1年生が先進的な農業経営を実践されている農業者のもとで、農業技術や経営を学習するものです。最終日には当普及センターを会場として、終了式が開催され、農業大学校生12人、受入先12経営体が出席されました。

学生からは受入先の農業者に対して、「大変だったけど幸せな1か月でした。」「幅広くいろいろな作業を経験させていただき、ありがとうございました。」「

などの御礼が述べられました。また、受入先の農業者からは、「よく頑張ってくれました。これからの学生生活に生かして欲しい。」などと、温かいお言葉をいただきました。

普及センターでは、今後も農業大学校等と連携して担い手育成を行っていきます。

○令和5年度美里地区先進農業体験学習終了式が 開催されました 令和5年10月13日 美里農業改良普及センター



令和5年10月6日(金)に美里農業改良普及センターにおいて、33日間の宮城県農業大学校先進農業体験学習を終えた学生と受入農家が参集し、終了式が開催されました。

はじめに、所長から「受入農家に感謝するとともに、貴重な体験をした学生は肉体的にも精神的にも成長したように思う。」とねぎらいの挨拶がありました。

次に、農大生からは稲刈りや野菜収穫、和牛の飼養管理、家畜市場視察等によって、様々な学びと、人との繋がりなど貴重な体験ができたことへのお礼の言葉がありました。

受入農家からは、「残暑の中での稲刈りや牛の世話などつらい仕事も体験してもらった。」「他の農家や農協など人との繋がり大切さ、農業の楽しさがわかるよう研修に心掛け、将来の就農に向けて今回の経験を活かしてほしい。」などのコメントをいただきました。

最後に、農業大学校から、研修受入れ5回目の農家に対して農政部長の感謝状を贈呈しました。

普及センターでは、今後も先進農家や関係機関と協力し、新規就農者の確保、育成に努めていきます。

○農業大学校の先進農業体験学習の終了式を行いました 令和5年10月19日 仙台農業改良普及センター



宮城県農業大学校の先進農業体験学習終了式が、令和5年10月6日(金)、宮城県仙台合同庁舎の会議室で開催されました。

この先進農業体験学習は、農業大学校の1年生が、先進的農業経営者のもとで33日間、農業の全般を学ぶ研修です。今年は水田経営学部、園芸学部、アグリビジネス学部、畜産学部の合計10人が、管内10カ所の農場で研修学習に励みました。

参加した学生からは「学びたいと思っていた以上のことを学ぶことができた」「これから農業に携わるうえで貴重なことを学んだ」と意欲的な声が聞かれました。また、受入れ農家側からは、「今年は暑くて大変だったと思うがよく頑張ってくれた」「何でもやってみようという姿勢が良かった」などと温かな声が聞かれました。

普及センターでは今後も農業大学校と連携しながら、青年農業者の確保・育成に努めていきます。

宮城県農業大学校について詳しくは下記URL(アドレス)をご覧ください。

宮城県農業大学校ホームページ

<https://www.pref.miyagi.jp/site/noudai/>

○先進農業体験学習が無事終わりました 令和5年10月20日 栗原農業改良普及センター



9月4日から始まった宮城県農業大学校の33日間の先進農業体験学習が無事終了しました。この体験学習は、技術の向上のみならず、学生が人や地域とのつながりを作ることを目的とし、先進農業者のもとで行われています。今年度、栗原管内には3名の学生が2つの農業法人と1人の先進農業者のもとで研修しました。

10月6日に開催した終了式では、「現場の厳しさを肌で感じる事ができた」「楽しく仕事できた」などと一人ずつ感想を述べました。受入れ側からは「明るく前向きに研修に取り組んでくれた」との評価をいただいた一方で、「社会人としての礼儀を学んでほしい」といった厳しい意見も聞かれました。

○登米管内で新規就農者をマイスター農業者が支援しています！

令和5年10月30日

登米農業改良普及センター



登米市では、新規就農者の早期の生産技術習得や経営安定化等を目的に、地域の熟練農業者を登米マイスターとして派遣し、個別技術指導により管理技術等について学ぶ「登米農業マイスター制度」を実施しています。

令和5年度は、2人（野菜及び繁殖）の新規就農者がマイスターから指導を受けています。今年新たに施設ピーマンの栽培を開始した新規就農者に対しては、ピーマンの栽培管理の他、葉物野菜等についてもマイスターから栽培技術を学んでいます。繁殖を行っている新規就農者は、今年から新たに始めた放牧や飼養管理等についてマイスターから助言をいただいています。

今後も当普及センターでは、市やマイスターと連携しながら新規就農者の技術向上を支援していきます。

○宮城県農業大学校の先進農業体験学習が終了しました

令和5年10月30日

登米農業改良普及センター



令和5年9月4日から10月6日までの33日間、宮城県農業大学校の先進農業体験学習が実施されました。この学習は、大学校の一年生が先進的な経営を営む農業者のもとで技術や経営のノウハウを学ぶとともに農村生活を体験するもので、当管内では農大生4人が学習に取り組みました。

体験学習実施前はどことなく不安げな表情をしていた学生でしたが、10月6日の終了式の頃には、農作業体験だけでなく、地域の方や同業者・取引先とのつながりの中で行う農業経営について実感し、学習を経験して充実した表情がうかがえました。

学習を通して学生からは、「花のことだけでなく、それ以外も学ぶことが多く、いろいろな経営を知ることができ、参考になった。」「毎日牛に触れ合っ、水田の作業も学ぶことができ、気づきが多くあった。」などの感想が述べられました。

また、受入農家の方々からは、「自ら工夫して学習に取り組み真面目だった。大学校で2年間がんばって、将来農家になることを楽しみにしている。」「初心を忘れずに素晴らしい経営者になってほしい。」といった声をかけていました。

今後も、この体験学習の経験を活かし将来の目標に向かって勉学に励んでほしいと願います。

○石巻4Hクラブが青空市を開催しました

令和5年10月30日

石巻農業改良普及センター



令和5年10月25日に、石巻地域4Hクラブ員が、みずから生産する野菜や花苗の直売会である青空市を、石巻合同庁舎前で開催しました。

今回は、長ねぎ、きゅうり、トマト、レタス、花苗のほか、柿等を出品し、これまで以上に周辺地域へ広く周知した結果、多くの来場をいただきました。早々に完売する品目も見られ、来場者からは「新鮮な野菜が手ごろな価格で嬉しい」「開催を聞き、楽しみにして来た」といったうれしい声も多く聞こえました。主催したクラブ員らも手ごたえを感じていた様子で、次回開催に向けて意欲が高まっていました。

当普及センターでは、青年農業者の経営発展に向けて、引き続き支援していきます。

③園芸産地の育成・強化支援

○若手果樹生産者の合同出展活動 ～せんなんマルシェ in 大河原合庁編～ 令和5年10月4日 大河原農業改良普及センター



令和5年9月27日に、大河原合同庁舎にて当地方事務所地方振興部の主催行事である「せんなんマルシェ in 大河原合庁」が開催されました。

大河原農業改良普及センターのプロジェクト課題「果樹産地の維持・発展に向けた若手果樹生産者を中心としたネットワーク構築」の活動の一環で、課題対象者のうち3名が出展し、生食用ブドウ（シャインマスカット、藤稔、安芸クイーン）、リンゴ（紅玉、トキ、ひめかみ）、リンゴチップスの販売を行いました。

売り上げは好調で、せんなんマルシェの終了時間を待たず完売となりました。

出展した課題対象者からは、「もっと商品を持ってくればよかった。来年も出したい」等のコメントがありました。

接客の中で自身の経営についてPRしている様子も見られ、今後の販売・経営にもつながる経験になったようです。

また、販売の合間に対象者同士で談笑している姿も見られ、本行事を通じて対象者間での交流が深まった印象がありました。

○蔵王地区の里芋出荷が始まります！ 令和5年10月5日 大河原農業改良普及センター



令和5年9月29日、JAみやぎ仙南蔵王地区里芋部会（部会員15戸）の出荷目揃い会が開催されました。

初めに全農みやぎと仙台あおば青果から今年の販売情勢について、それぞれの産地の生産状況と出荷額の説明がありました。また、JA及びあおば青果の担当者を中心に生産者が持ち込んだ里芋をサンプルに、出荷規格の確認を行いました。産地としての評価に繋げるため、出荷規格については今まで以上に遵守するように呼びかけました。生産者からは、選別基準についての質問や意見交換が行われ、産地発展に向けた意識の高まりを感じました。

今年は平年より降雨が少なく、高温の影響で害虫の発生も多い中、生産者それぞれが管理作業に努力し、栽培を行ってきました。普及センターでは今後も関係機関と一体となり、生産拡大に向けて支援を行っていきます。

○トマト黄化葉巻病対策講習会を開催しました！ 令和5年10月5日 石巻農業改良普及センター



令和5年9月15日にJA石巻農業情報センターにてトマト栽培者を対象として、トマト黄化葉巻病対策講習会を開催しました。

トマト黄化葉巻病は1966年に日本に侵入してから、西南暖地を中心に感染が拡大し、令和4年10月に宮城県内で初めて発生が確認された病害です。タバココナジラミの媒介のみで感染するウイルス病で栽培初期に感染すると収穫皆無となってしまう重要な病害です。

「いれない」「ふやさない」「ださない」の3つのポイントにまとめ、タバココナジラミや病原をほ場にいれない、防除管理や残さの処理を徹底してタバココナジラミと病原を増やさない、栽培終了時も施設の蒸しこみ等を行い、出さないことを中心に講習を行いました。

初期発生時の対応を素早くとらないと甚大な被害となってしまうので、適切な防除管理の徹底を呼びかけました。

○地域園芸産出額 37 億円目指して！
第二回園芸特産振興会議を開催！
令和5年10月6日
石巻農業改良普及センター



令和5年9月26日に石巻合同庁舎で「第二回園芸特産振興会議」をJAいしのまきや石巻市、東松島市など関係機関の担当者を参集し、開催しました。

本会議は、石巻地域の園芸の取組の拡大を目指すもので、年4回開催しています。

今回は、土地利用型園芸品目であるばれいしょやさつまいもの作付けの拡大、たまねぎの直播栽培の取組など園芸振興の新たな動きや普及センターのプロジェクト課題の紹介、いちごや小ねぎ産地の担い手支援の状況などの情報を共有しました。

そのほか、担い手の高齢化や減少、近年の資材等価格の高騰や今夏の高湿による園芸作物の減収など、現場で山積する問題や課題を共有し、解決に向けた取組を今後検討していきます。

普及センターでは、地域園芸産出額 37 億円を目指して、JA いしのまきや石巻市、東松島市等と連携して、園芸産地の拡大に取り組んでまいります。

○令和6年産いちご苗定植状況の確認
令和5年10月10日
仙台農業改良普及センター



宮城県では、いちごを重点振興品目に位置づけ生産振興を図っており、現在仙台管内では、主に観光農園としていちご生産に取組む法人を中心に面積が拡大し、現在はおよそ 1.5ha となっています。普及センターでは、これらの生産法人に対して、作期を通じた安定的ないちごの供給が行われるよう、月に数回定期巡回を行い、育苗、病虫害防除、養液管理および温度管理等に関する技術支援を行っています。

9月中旬の巡回では、令和6年産いちごの定植状況について確認を行いました。8月の高温の影響により、苗のチップバーンや、ハダニの多発生、花芽分化時期の遅れ等が懸念されていましたが、定植作業は例年と同様の時期に順調に進められ、その後も良

好に生育しています。

普及センターでは、今後も定期的に巡回を行い、高品質安定生産に向けて、防除等に関する技術支援を行ってまいります。

○令和5年度いちご栽培研修会を開催しました
令和5年10月11日
気仙沼農業改良普及センター



いちごは、みやぎ園芸特産振興戦略プランにおける当管内の重点振興品目に位置付けられており、園芸品目の重要な柱となっています。振興方策の一つとして、「IPM（総合的病虫害防除）の実践による病虫害防除体系の確立」を挙げていることから、特にいちご栽培で課題となるアザミウマ類の IPM 防除体系を重点的に学ぶ研修会を普及センター主催で開催しました。

研修会は10月3日に、気仙沼農業改良普及センターオープンラボを会場に開催し、生産者、関係機関等が参加しました。

普及員から IPM の基礎について説明するとともに、講師として石原バイオサイエンス株式会社の担当者より、天敵資材の効果的な使用方法などを講義してもらいました。

天敵の定着を促進するため、適切な放飼時期や殺虫剤の組み合わせについてアドバイスがあり、参加した生産者からは「改めて IPM について学ぶことができて勉強になった。今後の栽培の参考にする」との感想をいただきました。

当普及センターでは、引き続き、いちご栽培における IPM 実践の支援を行い、いちごの多収、高品質化による経営発展を後押ししていきます。

○栗原管内でさつまいもの収穫が始まりました！
令和5年10月16日
栗原農業改良普及センター





JA 新みやぎさつまいも研究会の会員のは場で、さつまいもの収穫作業が始まりました。この日は、茎葉の処理を終えた株を掘り取り機で掘り起こし、さつまいもを集める作業が行われていました。

この日収穫されたさつまいもは、6月上旬に定植作業が行われ、除草や鳥獣害対策など細やかな管理作業を経て、収穫に至りました。転作田において今年度初めての作付けが行われましたが、事前の試し掘りでは1株あたり1キロを超えるものもあり、生産者の期待が高まっています。また、収穫作業時には栽培に関心のある方が見学に訪れるなど、今後の作付け拡大が期待されます。

宮城県では、さつまいもの生産振興に向けて、県内の産地で協力して統一的なサプライチェーンの構築を目指しています。栗原管内のさつまいも生産者はまだ少ないですが、栗原普及センターでは、さらなる生産拡大に向けて引き続き支援していきます。

○JA 加美よつばキャベツ部会の出荷説明会が開催されました
令和5年10月17日
大崎農業改良普及センター



令和5年10月12日にJA加美よつばキャベツ部会の秋冬キャベツ出荷説明会が開催されました。説明会ではJAの担当職員から出荷規格と選別調整の方法について説明がありました。キャベツは外観からでは分からない球の内部の葉に痛みが生じていることがあるため、部会では出荷の都度、サンプリングして球の中まで葉を剥いて、痛みが無いことを確認することを徹底し、良品出荷に努めています。今年は夏の高温の影響で生育不良などの障害が発生するなど、厳しい栽培環境となりましたが、生産者の丁寧な管理によって収穫期を迎えたキャベツの出荷が始まっています。

○宮城県花き品評会で管内花き農家の出品物4点が入賞しました
令和5年10月25日
亶理農業改良普及センター



令和5年10月20日(金)に令和5年度宮城県花き品評会の審査会が行われました。

今年は夏季の猛暑で栽培管理が非常に難しいシーズンだったにもかかわらず、亶理農業改良普及センター管内から8品目12点が出品され、そのうち、ばらは金賞を、カーネーション、ひまわり、ストレリチアは銀賞を受賞しました。

特にばらは2年連続で金賞第一席(農林水産大臣賞)の最高位の賞となり、注目を集めました。

10月22日(日)に宮城県庁行政庁舎講堂で一般展示が行われ、当日は、会場内で全国高校生花いけバトル宮城大会も同時開催されたこともあり、高校生を始めとした多くの来場者が見学していました。

亶理農業改良普及センター管内から出品された花き類は、他の地域と比べて品目が多岐に渡り、バラエティーに富んだ内容で、花き生産の幅の広さを改めて感じる品評会になりました。

受賞された方々をはじめ、品評会に御協力いただいた皆様に改めてお礼申し上げます。

普及センターでは、今後も高品質な花きの生産に向けて技術指導を行っていきます。

○利府町で果樹産地協議会が設立されました
令和5年10月26日
仙台農業改良普及センター

令和5年10月20日(金)に、利府町役場で「利府町果樹産地協議会」の設立総会が開催されました。この協議会は、利府町内の生産者組織と利府町、仙台農業改良普及センター、農地中間管理機構、JA 仙台の5機関で構成されており、利府町における果樹産地の目指すべき具体的な目標を定めた利府町果樹産地構造改革計画を策定し、推進することを目的としています。県内では仙南、登米、亶理の各地区に続き4番目の設立となりました。

阿部新会長からは、「梨産地として歴史がある当地域だが、生産者の高齢化・老木化で生産性が低下している。今後は、担い手を中心として国事業を活用し、改植や新植を進め、産地の維持・発展を目指したい」と抱負の言葉がありました。

普及センターでは、今後、関係機関と共に産地計画の作成や事業導入に向けた支援を行い、利府梨の産地活性化を推進していきます。

○松島交通社会実験の賑わいイベントで「松島とまと」を販売しました
令和5年10月27日
仙台農業改良普及センター



令和5年10月14日及び15日に、第2回松島町交通社会実験が行われました。賑わいイベントとして、道路空間(通行規制区間)に加え、今年は新たに中央広場、グリーン広場を活用し、観光地「松島」の賑わいを創出する空間が作られました。

観光PRと地場産品を提供するグリーン広場で、管内の大規模園芸法人として普及センターで支援している「有限会社サンフレッシュ松島」が出展し、生産しているトマト、加工品のトマトジュースやジェラート、トマトかき氷などを販売し、地場産品をPRしました。同法人では、「桃太郎エイト」という品種を生産し、「松島とまと」というブランドで販売しています。松島とまとジュースは、ふるさと納税でも取り扱いが始まり、ジェラートは生産しているトマトといちごを使い今年発売されたばかりです。

15日はあいにくの雨でしたが、「松島産のトマトですか?」と足を止めて買い求める観光客の方もいました。14日は天候もよく気温も高かったため、新商品のジェラートなども売れ、夕方に開催された花火大会までにぎわっていました。

これまでサンフレッシュ松島では、スーパーでの試食販売などを行い、実際に食べてもらうことで「松島とまと」のファンを増やしてきました。コロナの影響で一時期中止していた試食会も今年から再開し、社長自らPRを行っています。

今回のイベントは、松島を訪れる観光客にも「松島とまと」を知ってもらうための良い機会となりました。今後もブランドトマトを安定して生産していけるよう、普及センターでも継続的に支援していきます。

○令和5年度協同農業普及事業の外部評価(第1回)を開催しました
令和5年10月27日
大河原農業改良普及センター



宮城県では農業改良普及センター単位で、普及指導計画に基づく活動の評価を行っています。

これは各農業改良普及センターが取り組んでいる普及活動について、県が委嘱した外部検討委員によ

る客観的な意見と評価をいただき、より効率的・効果的な普及指導活動に役立てることを目的としたものです。

大河原農業改良普及センターでは、令和5年9月14日木曜日に本年度第1回目の普及活動検討会を開催しました。

プロジェクト課題 No. 3 「果樹産地の維持・発展に向けた若手果樹生産者を中心としたネットワーク構築」では、管内の20～30代前後の若手生産者を対象に技術向上のための研修会や、つながりづくりのためのイベント出展について説明しました。

プロジェクト課題 No. 4 「仙南たまねぎの環境に配慮した栽培方法による生産拡大」では、リビングマルチや生分解性マルチを活用した環境に配慮した栽培方法の検証結果及び今後の課題について説明しました。

委員からは、「今後は参加している若手果樹生産者が主体的に活動できるよう促す事も必要であると思う。」「グリーンな栽培体系への取り組みは評価できる。今後、一般消費者向けにも情報発信していったらどうか。」等の意見をいただきました。

普及センターでは、農業者や地域農業の課題解決を図るため、外部委員の意見や評価を参考にしながら、関係団体と連携して効率的な普及指導活動に取り組んでまいります。

○スナックえんどう栽培講習会が開催されました 令和5年10月30日 栗原農業改良普及センター



令和5年10月24日(火)、JA新みやぎ瀬峰支店で、JA新みやぎ栗っコスナックえんどう部会の栽培講習会が開催され、同部会員12名と、(有)兵藤種苗商事及び普及センターの担当者が出席しました。

はじめに、(有)兵藤種苗商事の担当者より、これからの播種に向けたスナックえんどうの栽培管理方法について説明がありました。普及センターからは、主要病害虫の特徴と対策について説明しました。また、防除に使用できる薬剤の例示や、薬剤の抵抗性発達を防ぐため、RACコード(農薬の作用機構分類)を参考にしたローテーション散布を呼びかけました。

参加者からは、天候に合わせた栽培管理や、今年発生が多いカメムシへの防除方法について質問があり、講師が都度回答しました。普及センターでは、今後も栽培技術の向上を支援していきます。

○令和5年度宮城県花き品評会で美里管内生産者が金賞・銀賞を受賞しました！ 令和5年10月30日 美里農業改良普及センター



令和5年10月20日(金)に宮城県花き品評会の審査が行われ、県内から切り花64点、鉢物類19点、花壇苗21点の合計104点が出品されました。

その結果、大崎市鹿島台の株式会社フローラ平山のトルコギキョウ「パールⅢ型ブルー」が金賞(宮城県知事賞、株式会社仙花代表取締役社長賞)を、美里町の柴山真二氏のばら「サムライ」と「フェスティボ」、株式会社フローラ平山のトルコギキョウ「ボヤージュⅡ型ライトピンク」が銀賞を受賞しました。

今夏は猛暑の影響で、花き生産にとっては非常に厳しい状況でしたが、生産者の方々の努力が報われ、高い評価を得ることができました。

10月22日(日)には県庁において、「全国高校生花いけバトル宮城大会」の開催にあわせて展示され、美しい花々を多くの県民にご覧いただきました。

普及センターでは、今後とも花き栽培技術の向上により生産者の意欲や市場評価が高まり、消費拡大が図られるよう支援していきます。

④収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援

○子実用とうもろこしの刈取り実演会が開催されました 令和5年10月4日 大崎農業改良普及センター





JA 古川では、令和 4 年から子実用とうもろこしの栽培に取り組んでおり、2 年目となる今年は、30 経営体が 102ha で作付けをしています。今年の子実用とうもろこしは、4 月下旬から播種が開始され、生育期間を通して好天に恵まれたことから、昨年よりも良好な生育となっています。

令和 5 年 9 月 14 日（木）には、刈取り実演会が開催され、多くの生産者や関係機関が参加しました。実演会では、耕種概要や収穫適期、収穫機械について説明があり、その後、コンバインによる収穫作業、フレールモアによる残穂処理作業を見学しました。生産者からは適期収穫を励行し、収穫ロスを減らしたいとの声が聞かれました。

普及センターでは、子実用とうもろこしの安定生産に向けて、関係機関と連携し、引き続き技術支援を行っていきます。

○さつまいもの収穫作業が行われました 令和5年10月6日 仙沼農業改良普及センター



気仙沼市本吉町表山田・三段田地区では、ほ場整備後の農業の収益性向上を目指し、今年度、えだまめ（4.4a）とさつまいも（6.8a）の試験栽培に取り組みました。ほ場整備推進委員会ではさつまいもの収穫作業の実施日を令和 5 年 10 月 1 日と決め、地区の住民に協力を呼びかけたところ、15 名が参加し、収穫作業に汗を流しました。

当日は、委員会の事務局から収穫作業の流れが説明され、蔓を切る、マルチをはがす、掘り上げるといった一連の作業を手分けして行いました。また、普及センターも作業に参加し、さつまいもに傷をつけないために優しく扱うよう助言しました。

掘り上げる作業では、「大きい」と感嘆の声、「（芋を）切ってしまった」と残念がる声が飛び交い、終始、賑やかに作業が行われました。さつまいもは大きいもので 1 kg を超えるものもあり、大きさ毎に分別してコンテナに入れ、貯蔵場所に運搬して作業は終了しました。今後は、直売所を中心に販売していく予定です。

なっています。

販売終了後には委員会の役員とともに試験栽培の振り返りを行い、来年度に向けて検討を行います。

○令和5年度宮城県総合畜産共進会(肉用牛の部) が開催されました 令和5年10月6日 石巻農業改良普及センター



令和 5 年 9 月 8 日～9 日に、（一社）宮城県畜産協会主催による「令和 5 年度宮城県総合畜産共進会【肉用牛の部】」が、美里町のみやぎ総合家畜市場で開催されました。県内各地の地区予選を勝ち抜いて選ばれた地区代表牛 63 頭が出場し、発育や体のボリューム、骨格の強さ、和牛としての品位等についての審査が行われました。石巻地区からは、6 月 30 日の令和 5 年石巻地域肉用牛共進会で選ばれた 8 頭が出品されました。

各地区の代表ということもあり、発育良好で体も大きいものが多く、宮城県の和牛改良が進んでいることがうかがえるハイレベルな審査となりました。

今回は残念ながら石巻地区の代表牛は惜しくも入賞を逃しましたが、来年度に向けて和牛改良組合や JA、関係機関が一体となって、和牛改良に取り組んでいきます。

○農地集積の推進会議が開催されました 令和5年10月19日 仙台農業改良普及センター



10月16日、仙台・亘理農業改良普及センター、農業振興部、農業農村整備部及び仙台家畜保健衛生所で構成される、農地集積仙台地方推進本部会議が開催され、上半期の取組状況と下半期の取組内容について検討がなされました。

上半期の取組では、市町村の地域計画策定に向けた支援状況や、農地整備事業実施又は予定地区における、農地集積の推進や法人化支援などの担い手確保・育成、高収益（園芸）作物の栽培支援など、関係部所が連携し取り組み、成果が発現しつつあります。下半期の取組については、引き続き市町村への地域計画策定や農地整備事業実施又は予定地区に対し重点的に支援することを確認しました。

推進本部代表である仙台地方振興事務所の副所長（技術担当）からは、「今後の農地集積を加速させるためにも、関係部所が連携し下半期も取り組んでほしい」と今後の活動に対しても期待を込めたお話がありました。

当普及センターでは、9市町村の地域計画策定支援と10地区の農地整備事業実施又は予定地区における、農地集積を視野に入れた担い手確保・育成と高収益作物の栽培等の支援に取り組んでまいります。

○JA 仙台大豆生産部会協議会が開催されました 令和5年10月27日 仙台農業改良普及センター



令和5年10月18日に、JA仙台北店においてJA仙台大豆生産部会協議会が開催されました。協議会には大豆生産者やJA仙台、全農、普及センターの職員等約50名が参加し、今年の大豆の販売情勢や生育状況・収穫時期、荷受け計画等について意見が交わされました。

普及センターからは、10月16日に発行した仙台大豆作情報をもとに生育調査ほの生育状況や収穫時期について説明しました。

また、JA仙台からは荷受け計画の他に、今年の害虫発生状況や次期作以降の病虫害防除について説明がありました。今年は開花期前後に高温乾燥が続いたことや、害虫の多発生等による品質低下が懸念されます。普及センターでは今後状況を確認し、病虫害防除の回数や時期の見直し等について支援してまいります。

2. 農畜産物の安定供給

①時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給支援

○子実用とうもろこし専用収穫機（コーンヘッド）の実演会が行われました 令和5年10月4日 石巻農業改良普及センター



令和5年9月27日にJAいしのまき主催で子実用とうもろこし専用収穫機（コーンヘッド）の実演会が開催されました。

JAいしのまきでは、昨年度から水田における転作作物としての可能性を検討するため、桃生地区2か所で子実用とうもろこしの栽培実証試験を実施しています。今年度は、ヤンマーアグリジャパン（株）の協力により、コーンヘッドを借用し、2日間で約3haの収穫を行いました。実演会には、JA、生産者等の関係者約30人が参加し、朝から雨模様ではありましたが、昼前には止み、収穫作業を開始することができました。コーンヘッドは、汎用のリール式収穫機と異なり、雌穂のみを脱穀部へ送るので、作業速度が早く、選別の精度も向上しています。参加者は、作業速度や雌穂の収穫ロスのお少なさを、収穫された子実の品質に感心していました。

今年は、台風や大雨等の気象災害もなく、虫害対策もしっかり行えたことから、昨年以上の収穫量が見込まれます。今後は、乾燥調製後の収量や品質を評価した上で、次年度以降の作付け方針等を検討する予定です。当普及センターでは、これからも石巻地域における水田農業の維持・発展に向けて、飼料作物の栽培支援を行ってまいります。

○令和5年産南三陸米の出荷が開始されました 令和5年10月4日 気仙沼農業改良普及センター

令和5年9月26日、「南三陸米」の新米出発式が行われ、生産者、市町、米穀販売業者、気仙沼地方振興事務所などの関係者が参集し、取組の継続を祝うとともに、今後のますますの発展を祈念しました。



南三陸米は、米の地産地消を目的としたブランド米で、気仙沼市、南三陸町、登米市津山町で栽培されたひとめぼれ1等米を用いています。

今年は、栽培期間をとおして高温で推移し、特に登熟期間の8月は記録的な暑さとなりましたが、農家の皆様の丁寧な栽培管理により、食感、香り、甘みなどの食味が大変優れた1等米となりました。

南三陸米は、平成16年から取組が開始され、今年で20年目を迎える節目の年であり、地域の農業を支える重要な柱となっています。

南三陸の秋の味覚の一つとして、ぜひ御賞味ください。

**○令和5年度宮城県総合畜産共進会(肉用牛の部)で、大崎市田尻地区の出品牛が名誉賞を受賞！
令和5年10月10日
美里農業改良普及センター**

令和5年9月8日～9日に、みやぎ総合家畜市場(美里町)において、令和5年度宮城県総合畜産共進会(肉用牛の部)が開催されました。



地区共進会を勝ち抜いた選りすぐりの黒毛和牛63頭が出品され、発育や体つき、毛質などの資質、種牛性などについて比較審査が行われました。

審査の結果、大崎市田尻の相沢まゆみ氏のもも号が、見事名誉賞(農林水産大臣賞、宮城県知事賞)に輝きました。

また、同じく大崎市田尻の後上藤三氏のはつみ号が第1区若雌の1で最優秀賞第1席、みどりの和牛育種組合が第5区父系群で最優秀賞第1席を獲得しました。さらに、みどりの和牛育種組合を含む大崎地区が団体賞を受賞しました。

令和9年に開催される「第13回全国和牛能力共進会北海道大会」に向け好スタートを切ることができました。今回の共進会を通して、今後の畜産業界がますます盛り上がることを期待されます。

3. 持続可能な農業・農村の構築

①地域資源の活用等による地域農業の維持・発展

**○海外の農村女性の能力向上に向けて、宮城県の普及活動を開発途上国の普及員等に紹介！
令和5年10月3日
美里農業改良普及センター**





開発途上国では、人口の過半数が農村地域において農業で生計を立てており、農業労働をはじめ、女性が重要な役割を担っています。しかし、女性は家計を支える他にも家事や育児のほか、地域活動にも従事しており、総労働時間が非常に長いことや、社会的・文化的要因から農村女性の行動は制限されることがあり、技術を身につけて生活を向上させることが難しくなっています。そこで、JICA（独立行政法人国際協力機構）が企画し、JICE（一般財団法人日本国際協力センター）が受託して、開発途上国の各国政府あるいは地方政府の普及指導官および女性問題担当官を対象とした2023年度課題別研修「農村女性能力向上」が9月11日（月）から9月29日（金）までの期間で実施されました。

そのカリキュラムの一環で、宮城県の農村女性の実践的な支援方法等についての視察研修を9月25日（月）、当普及センターで受け入れました。

当日は、アフリカなどの13か国13人の普及指導員や農村女性対象のジェンダー活動に従事する担当者が当普及センターを訪れました。はじめに、普及センター所長から歓迎のあいさつを行った後、「宮城県における農村女性活躍支援について」を総括次長から説明を行いました。その後、「みやぎの食を伝える会」会員で県職員OBの生活改良普及員2人から、農村女性の地位向上や男女共同参画に向けた普及指導活動の取組経過と地域の伝統ある郷土食を伝承するための活動について講義を行った後、普及センターの土壌診断室と調理実習室を案内しました。

午後からは、管内の先進的農業女性経営者のパイオニアである、「株式会社はなやか」代表取締役伊藤恵子さんの取り組みについての研修を行いました。まず、伊藤さんが経営している農家レストラン「野の風」で昼食を取りました。旬の自家農産物を中心とした料理に研修員は「美味しい」と舌鼓。中には「さつまいもごはん」を2杯もおかわりをする研修員がいるなど、大変好評でした。

その後、伊藤恵子さんの波乱万丈な人生とこれまでの農業経営の歩み、地域における農村女性の地位向上に向けた家族や地域の人々の支え、普及センターなどからの女性の活躍に向けた講座の受講の後押しやネットワークづくりなどの取り組みが女性の地位向上に重要だったとの話に、研修員は感動し、拍手喝采となりました。また、質問も多く、あっという間に予定の時間となりました。

参加した研修員が自国に戻ってから、農村女性のエンパワーメントに関する知識や具体的な手法の参考の一助になればと願っています。

「エンパワーメント」とは

力をつけること。また、女性が力をつけ、連帯して行動することによって自分たちのおかれた不利な状況を変えていこうとする考え方・権限の委譲。企業に

おいて従業員の能力を伸ばすためや、開発援助において被援助国の自立を促進するために行われる。

○気仙沼市大島で商品開発研修会を開催しました 令和5年10月12日 気仙沼農業改良普及センター



令和5年10月4日、大島公民館を会場に、気仙沼大島ウェルカム・ターミナルで農林水産物や加工品等を販売する気仙沼大島地場産物出荷・販売組合を対象とした、商品開発研修会を開催しました（組合員16名が参加）。

研修会は、岩手県を中心に全国各地で農林水産物等の商品開発支援に携わる、(株)パイロットフィッシュの五日市先生から「小さな力の商品開発 ～お客様に選んでいただくために～」と題して、事例を交えながら商品開発の基本について、御講義いただきました。

本研修会は、全4回の研修をとおして、気仙沼大島の地域資源を活用した商品を開発することを目標としており、参加者からは、「具体的な話が多く、パッケージの大切さを理解できた」、「地域の資源を見つめ直し、商品開発を行いたい」等の前向きな感想をいただきました。

普及センターでは、引き続き農産物の安定生産や商品開発の支援を行ってまいります。

○「なとり・ぐるっと親子講座 稲刈体験」が開催されました 令和5年10月16日 亘理農業改良普及センター



令和5年10月7日に名取市地域農産物等消費拡大推進協議会（事務局：名取市農林水産課）が主催する「第4回なとり・ぐるっと親子講座 稲刈体験」が開催され、亘理農業改良普及センターも運営支援で参加しました。

参加した13家族43人の親子は、春に自分達で田植した稲を1株1株丁寧に手刈りしました。

当日は曇り空でやや肌寒いかと心配されましたが、作業が始まると汗ばむほどでした。風も無く穏やかな稲刈り日和となりました。

また、コンバインによる稲刈り実演見学では、あっという間に稲刈りが終了したことに子供たちから「早いね。かっこいいね」などの感想が聞かれました。

当普及センターでは、名取市地域農産物等消費拡大推進協議会の活動とともに、管内農産物の魅力発信を支援してまいります。



**○『ささ結』9年目の新米試食会が開催されました
令和5年10月16日
大崎農業改良普及センター**



令和5年10月2日(月)、当事務所も構成員となっている「大崎の米『ささ結』ブランドコンソーシアム」の主催により、「ささ結」の新米試食会が、大崎市古川の祥雲閣で開催され、関係者26名が今年の新米の味を確認しました。

今年の夏は、記録的な猛暑が続き、収穫前から食味や品質への影響が心配されましたが、「ささ結」の例年どおりの味と香りに、関係者全員が舌鼓を打ち、生産者の努力と技術に対する称賛の声があがりました。

今年、「ささ結」の母である「ササニシキ」が、誕生60周年を迎える記念の年でもあり、試食会では「ササニシキ」のおにぎりも提供されました。今後も、「全国すしの日 大崎『ささ結』キャンペーン」、「『ささ結』新米フェア」、「全国ササニシキ系『ささ王』決定戦」など、様々なイベント等の開催が予定されています。

**○酒米サポーターズクラブの稲刈りが行われました
令和5年10月18日
気仙沼農業改良普及センター**



気仙沼市廿一地区では、清流「蔵の華」廿一会(会長：熊谷公兵氏、会員12名)が、酒米「蔵の華」を約7ha栽培し、気仙沼市内の蔵元2社(株式会社男山本店、株式会社角星)に全量販売されています。

10月14日に、同地区のほ場を会場に、酒米サポーターズクラブ(事務局：気仙沼市産業部農林課)主催の稲刈りが行われました。廿一会の会員や蔵元などに加え、一般の参加も得られて、50人で、稲刈り鎌による刈り取り、稲わらによる結束、はせがけに挑戦しました。

5月27日に田植えイベントを行った同ほ場は、倒伏もなく、好天にも恵まれ、中山間地域に広がる棚田や山並みなどの風光明媚な景色も楽しみながら、順調に刈り取りを進めました。

本年産酒米による新酒は、来年2月頃に完成予定です。そのうち、両蔵元の共通ブランド銘柄である「福宿(ふくやどり)」は、全量が気仙沼市産の「蔵の華」によるもので、酒販店とも連携して市内限定で販売されるなど、関係機関が一体となった地産地消の取組となっています。

気仙沼市産酒米による新酒に、ぜひ御期待ください。

○地域計画策定に向けた地区協議が開催されました

令和5年10月24日
巨理農業改良普及センター

岩沼市において地域計画策定に向けた地区協議が、10月18日に北部4地区の第2回目、20日に西部5地区の第1回目が開催されました。





北部地区では8月に引き続き、地域計画の内容の協議や担い手の耕作地の確認作業が行われました。西部地区では、地域計画策定の意義や策定スケジュール等を確認したのち、出席者で地域農業の課題や農地のあり方について協議が行われました。

いずれも、平地における水田については、将来耕作する担い手の見込みが立つものの、鳥獣被害も含めて山手側の小畵水田や畑地では、耕作者の確保が難しいことが確認されました。

市では今後、主要な農業法人、JAや土地改良区からの情報を耕作地図に反映させて、目標地図の作成作業を進める予定となっています。

普及センターでは、地域計画策定について引き続きサポートしていきます。

○「高城(たかぎ)ごぼう」の収穫作業が行われています
令和5年10月27日
大崎農業改良普及センター



色麻町高城地区では「高城ごぼう」の収穫が最盛期を迎え、令和5年10月24日秋晴れの下、農事組合法人下高城ふああむ(代表理事組合長:早坂成弘氏)の約60aのほ場では、組合員が1本1本丁寧に収穫作業を行っていました。

「高城ごぼう」はこの地域で戦後から昭和40年代まで盛んに栽培されていたものの、その後栽培が途絶えていましたが、農事組合法人下高城ふああむの前身である集落営農組合により栽培が復活したごぼうです。肌が白くて、豊かな香りと柔らかな食感が特徴なことから、色麻町の秋まつりなどイベント販売ではすぐに売り切れてしまうほど人気があります。

今年の「高城ごぼう」も例年どおりに品質は上々で、10月28日から下高城ふああむの格納庫で販売が開始されます。

②環境に配慮した持続可能な農業生産

○JAみやぎ登米アグリフェスタにて、「グリーンな栽培体系」の紹介を行いました。

令和5年10月18日
登米農業改良普及センター



令和5年10月15日にJAみやぎ登米アグリフェスタが開催され、普及センターのプロジェクト課題で取り組んでいる「グリーンな栽培体系の実践による持続可能な稲作経営の実現」について紹介しました。あいにくの雨でしたが、会場には多くの方が来場されました。

当日はポスターの展示とチラシの配布を行い、取組内容を紹介しました。新聞等でペースト肥料が取り上げられていたこともあり、足を止めて興味を持った方や熱心に話を聞いてくださる方もいて、「グリーンな栽培体系」の取組を広く周知することができました。

今後もグリーンな栽培体系の実現に向けた検証を行い、引き続き取組の紹介を行っていきます。

4. その他

①要請・緊急対策、その他

○東北ブロック現地活動調査研究会が開催されました
令和5年10月3日
大河原農業改良普及センター



令和5年9月8日に、仙台市福祉プラザ ふれあいホールで東北ブロック現地活動調査研究会が開催されました。

本研究会は、東北6県の農業改良普及センターが取組んだ課題成果の発表の場となっており、各県が持ち回りで開催しています。今年は、ふれあいホールでの対面参加の他、オンライン配信を行い、延べ161名の農業改良普及指導員が参加しました。

各県の先進的かつ優良事例の発表に対し、出席者からは多くの質問が寄せられました。最後に、各県の農業革新支援専門員から講評があり、普及指導員の資質向上につながる研究会となりました。

来年度は、福島県で開催されます。

普及指導員が県内9か所の普及センターで、農業者を支援しています。

<大河原>
〒989-1243
大河原町字南 129-1
TEL:0224-53-3519

<亙理>
〒989-2301
亙理町逢隈中泉字本木9
TEL:0223-34-1141

<仙台>
〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL:022-275-8320

<大崎>
〒989-6117
大崎市古川旭四丁目1-1
TEL:0229-91-0727

<美里>
〒987-0005
美里町北浦字笹館5
TEL:0229-32-3115

<栗原>
〒987-2251
栗原市築館藤木5-1
TEL:0228-22-9404

<登米>
〒987-0511
登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5
TEL:0220-22-8603

<石巻>
〒986-0850
石巻市あゆみ野5-7
TEL:0225-95-7612

<気仙沼>
〒988-0181
気仙沼市赤岩杉ノ沢 47-6
TEL:0226-25-8068



***各農業改良普及センターには、「地域の食と農の相談窓口」を設置しております。食や農に関して知りたいことがありましたら、上記連絡先にお問い合わせください。**

みやぎの農業普及現場 NEWS LETTER No.201

発行日:2023年 xx月 xx日

発行:宮城県農政部農業振興課

編集:宮城県農政部農業振興課普及支援班

TEL:022-211-2837 FAX:022-211-2839

E-mail : gbfs@pref.miyagi.lg.jp